

第1部会（第3回）における委員意見について

章 節	とりまとめ局 マネジメント局	項 番	意見	対応方針（案）
第4部 第1章 市民協働・ 公民連携 第1節 多様な主体とともに つくるまちづくり	都市戦略本部 都市戦略本部 市民局	1	タイトルは、「公民学」とするのが適当ではないか。	「公民学」の表現を使用している自治体もあることは認識していますが、各事業において特に大学との連携を強調する必要がある場合に使用されており、「公民連携」という表現には、大学との連携も含まれていると考えられることから、広く一般にも浸透している「公民連携」を用いることとします。
		2	「行政だけで解決できない問題」という表現は、裏返すと「これまでは行政だけで解決できた」と読めることから、見直すべき。	御指摘を踏まえて、「現状と課題」欄の1つ目を「ライフスタイルの多様化や少子高齢化の進展に伴い、市や市民を取り巻く社会環境は変化し、多様化、複雑化するニーズに対して、これまでの取組では適切に対応することが困難になってきています。」に修正します。
		3	市民との協働というのは非常に難しく、公民連携の在り方は分かりづらい。これまでのPFIや指定管理の足りない部分を明確にしてほしい。	PFIや指定管理者制度には法令に定められた手続きがあり、個別事業を実現するための手法であって、課題等はそれぞれの事業により異なることから、実施計画の各事業の中で説明してまいります。
		4	協働と連携、市民協働と公民連携といったような並列の言葉がよく出る。用語の整理をすべきだ。	御指摘の点については、次期総合振興計画の「用語解説」において整理します。
第4部 第2章 高品質経営 市役所 第1節 市民に信頼される開 かれた市政運営	都市戦略本部 (市長公室)	5	広報・広聴について、広聴がどう機能し、どのような効果を上げたのかというプロセスの部分の評価が重要だ。成果指標も含めて見直すべきではないか。	御指摘のとおり、広聴機能を充実させ、市民の声を市政に反映させていくことは、そのプロセスも含め重要であると認識しています。 御指摘の点について、改めて検討いたしました。平成30年度時点で「わたしの提案」制度の認知率が20.6%と低い現状にあることを踏まえると、目指す方向性に沿った施策展開と成果指標としては、まずは広聴事業の認知率を上げていくことに主眼を置くべきだと考えています。 そして、認知率が上がり、広く市民の意向を把握できるようになることにより、より一層政策策定の一連のプロセスの中に広聴事業を有効に繋げられるものと考えています。

章 節	とりまとめ局 マネジメント局	項 番	意見	対応方針（案）
第4部 第2章 高品質経営 市役所 第2節 健全財政の維持	都市戦略本部 (財政局)	6	健全財政は、特別会計の繰入が今後どうなっていくのかも盛り込むべきではないか。法定外目的税の導入についても、議論の対象とすべきではないか。	御指摘のとおり、健全財政の維持は一般会計に限らず特別会計も含めて判断すべきものでありますが、現状の表現で包含できていると考えます。なお、成果指標については、特別会計の状況も含めて健全性を判断できる指標とする予定で検討しています。法定外目的税については、実施に関して慎重に検討する必要がありますため、議論の対象とすることは困難な状況です。
第4部 第2章 高品質経営 市役所 第3節 市政を支える職員の育成と働く環境の整備	都市戦略本部 (総務局)	7	職員の働き方については、正規職員のことだけが書いてあるように思う。会計年度職員や非常勤職員も多くなってきたので、特出ししていてもよいのではないか。	御指摘のとおり、働き方の多様性や職員の個々の事情やニーズへの対応が進む中、公務の担い手としての会計年度任用職員や臨時職員の重要性は高まってきていると認識しています。それぞれの任用制度の趣旨や仕組み上、個々の勤務制度や施策等を計画に位置付けていくことは馴染まないと考えますが、職場におけるコミュニケーションの向上や改善に取り組む風土の醸成といった本計画の基本的な方向性の中には、正規職員だけでなく職員全体を広く包含しているものと考えています。
		8	職員の育成について、「組織に貢献できる」という言葉だと部や課に貢献することと受け取れるが、「業務・事業に貢献する」というように表現を改めるべきではないか。	御指摘の「組織に貢献できる」という言葉については、本節の「市政を支える職員」という趣旨から、高品質経営市役所を目指すに当たり、職員個々の育成とともに、職員の力を合わせて相乗効果を発揮できるよう、事業を担っている組織としての力・チーム力の向上が重要であるとの意図でした。御指摘を踏まえて、文言の修正等を行う方向で検討してまいります。
第4部 第2章 高品質経営 市役所 第4節 高品質な施策を生み出すための仕組み	都市戦略本部 (都市戦略本部)	9	計画推進、進行管理についての記述が抜け落ちているのではないか。	御指摘の計画推進、進行管理については、計画の根幹に関する部分であり、基礎的な部分ですので、計画の全体構成における「第1部 計画の全体像」の中に詳細な位置付けを記載してまいりたいと考えています。
第4部 第2章 高品質経営 市役所 第5節 真の分権型社会を担う自主的・自立的な都市の実現	都市戦略本部 (都市戦略本部)	10	地方分権に関する「国に働きかける」という表現は見直したほうがよい。また、市民生活に直結したものではないので、計画に盛り込む必要もないのではないか。	御指摘の点について、住民に身近な行政の実現という地方分権の趣旨を鑑み、本節の位置付けは残すこととしたいと考えています。また、「国に働きかける」という表現については、御指摘を踏まえて、文言の修正等を行う方向で検討しています。

章 節	とりまとめ局 マネジメント局	項 番	意見	対応方針（案）
重点戦略		11	重点戦略に関する施策展開の中にも優先順位があるのではないかと。具体的な目玉となる施策展開を、都市戦略の大きな方向性として記載した方がよいのではないかと。	「重点戦略」素案の目指す方向性という項目において、重点戦略（各戦術）の大きな方向性を記載しました。
		12	重点戦略が目指す将来都市像について、具体的に記載して欲しい。	第1部 計画の全体像に記載される「将来都市像（案）」の抜粋を参考資料として提示します。
		13	重点戦略は、分野別計画をただ抽出説明しているだけのように思えます。空間的・分野別の切り口を超えて、もう少し踏み込んだ視点での抽出内容を記載すべきではないかと。	魅力・課題に関連の強いものを分野横断的に抽出しております。
		14	「上質な生活都市」と「東日本の中枢」を説明する過程がありません。ロジカルフレームになっていないので、計画からなぜこの2つの将来都市像になるか説明できません。	将来都市像は、これまでの都市づくりを引き継ぎ、これまでの都市づくりで育まれた魅力を生かしながら、本市の取り巻く課題に的確に対応していくため、現在の将来都市像を一步進めた目標です。
		15	重点戦略が2段階構成になるのがわかりづらい。	「重点戦略」素案の中で、重点戦略1と2の関係性の説明を記載しました。
		16	重点戦略2の課題は、本当にそれが課題になるかわからない部分が散見される。急速な高齢化は事象でしかなく、これによってさいたま市でどのような課題が出てくるかが読み取れない。	第1部 計画の全体像に記載される「さいたま市の課題（案）」の抜粋を参考資料として提示します。
		17	課題4は地球環境問題の深刻化への対応と記載されており、いきなりグローバルレベルの話になっている。	各課題のレベルに差はあるが、いずれもさいたま市が直面する課題として5つ掲げています。
		18	それぞれの魅力・課題と施策展開、重点戦略の整合性について、どこで議論するのか。	魅力・課題と重点戦略とのつながりについては、重点戦略の素案の中で改めて意見を伺いたい。重点戦略に位置付く具体的な施策展開や事業については、今後実施計画を策定する際に決定していきます。
		19	重点戦略の全体図で、2つの将来都市像を打ち出したいのであれば、「上質な生活都市」と「東日本の中枢都市」に関わる施策を記載する必要があります。11章までの章立ての中でグルーピングをし、重点戦略はその中でも11章に跨る分野の特に重点的にやりたいことなので、11章すべてに入れてしまうのが図の表現としてよい。	重点戦略の全体図を修正しました。

章 節	とりまとめ局 マネジメント局	項 番	意見	対応方針（案）
重点戦略		20	「上質な生活都市」と「東日本の中枢都市」に関わる物語を書き、その物語に施策が繋がっていく表現にした方がよい。	第1部 計画の全体像に記載される「将来都市像（案）」の抜粋を参考資料として提示します。
		21	前回の意見にもあった物語と、2つの将来都市像と施策の繋がりが見える形を見せてほしい。その表現は文章だとわかりづらいので絵にする必要がある。	第1部 計画の全体像に記載される「将来都市像（案）」の抜粋を参考資料として提示します。
		22	個人的な意見ですが、重点戦略は魅力を生かす戦略だけで十分ではないか。重点戦略が2段階構造で分かれているのもわかりづらい。	魅力を生かして、持続可能な都市として成長・発展し続けるためには、課題に迅速に対応し、まちづくりの土台をしっかりと築くことが重要であると考えています。